2012年12月11日/神戸新聞

調理員が給食無断飲食

西宮の8保育所　「園児の分が不足」の指摘も

 西宮市立の保育所８園で、調理員が園児用の給食やおやつを無断で飲食していたことが10日、分かった。園児に提供する分が足りなくなったとの指摘もある。市は「公費で子供のために購入している食材で、あってはならないこと。処分も含めて厳正に対処したい」とし、本格的な調査を行う方針。

（金山成美）

　同市保育所事業課によると、市議から指摘を受けて調査したところ、全23園のうち8園で調理員が給食、牛乳、おやつなどを飲食していたことが判明した。

　保育所の給食は、市の栄養士が共通の献立を作成し、年齢に応じて子ども１人当たりの分量を算出。各園が翌月分の園児の見込み人数を提出し、市が一括して食材を発注している。

　また、調理員の作業マニュアルには「昼食は各自準備」とある。

　同課は「誰が、いつから飲食していたのかは確認できていないが、余ったものをもったいないと思って食べた、と聞いている」とする。

　この問題は同日の市会一般質問で取り上げられ、市議は「元調理員から『昼食として食べていた人がいた。子供の分が不足する事態も起こっていた。』と聞いた」と指摘した。

　市は「（子どもの分が）不足したかどうかは確認できていない」としている。

　同課は「調理員の認識と管理監督、両方の甘さが原因。意識改革やマニュアル見直しを徹底したい」としている。

2012年12月12日/読売新聞

調理員、給食を無断飲食

西宮市立8保育所で日常的

西宮市の市立保育所8園で、調理員が日常的に園児の給食やおやつを無断飲食していたことがわかった。「園児の給食が不足したこともあった」との指摘もあり、市は「不足したかどうかは確認できていないが、明らかな不正行為。厳正に対処する」として処分を検討する。

市保育所事業課によると、市立保育所では全23園に各3、4人の調理員を配置。うち8園で、給食の調理と配膳を済ませた休憩時間などに、調理員が余った給食を自分の弁当などと一緒に食べていたという。

　作業マニュアルには「昼食は各自、持参」と明記されているが、調査に対し、調理員たちは「大量に余る日もあり、もったいないと思って食べた」と話したという。保育士の飲食は確認されていない。

　10日の市議会一般質問で市議の一人が問題を指摘。関係者の話として、「自分の昼食として当て込んでいた調理員もいた」という。

2012年12月19日/中日新聞

「残った給食どうする」論争

廃棄すべき？もったいない？それとも・・・職場問題？

　兵庫県西宮市の私立保育所で、調理員が子どもの余った給食を食べていたことが物議を醸している。インターネット上では「捨てるのはもったいない」「調理員は給食費を払ってないのに…」などと書き込まれ、「余った給食は捨てるべきか否か」という論争に発展した。何が発端だったのか。

（出田阿生）

　騒動の始まりは今月十日の西宮市議会。澁谷祐介市議が一般質問で「元調理員から『自分たちの昼食用に給食を食べていた人がいた。子どもの分が不足する事態も起こっていた』と聞いた」と指摘したことだった。

　市は、市立保育所全二十三園から聞き取ったところ、八園が「もったいないので、子どもが欠席して余ったおかずや牛乳、パンなどを昼休みに休憩室などで食べていた」と回答した。だが、そのせいで子どもの分が不足したということは「なかった」という。

　市立保育所の給食は、市の栄養士が共通の献立を作成。年齢に応じて子ども一人当たりの量を計算し、園児の数をもとに市が材料を一括発注している。調理員は給食費を払っておらず、業務手引では「昼食は各自準備する」となっている。

昼食は各自持参「余れば捨てる」

　市保育所事業課の尚山和男課長は「昼食は持参し、余った給食やおやつは捨てるよう指導していた」と説明。今回の調理員の飲食について「公費で購入しているものなので廃棄すべきだった。たとえ余ったとしても、市職員のけじめとして食べてはいけないことになっている」とする。

　全国的に、学校給食の食べ残しは堆肥として再利用するといった動きが出始めている。「余りは廃棄」という市の説明がニュースで流れると、「もったいない」などと賛否で話題になった。

　当の澁谷市議は「いつの間にか食べ残し論争になったのは心外だ」と言う。市議のもとには、職場のいじめが理由で保育所をやめた元調理員が「揚げ物が献立にあるときは片付けが面倒だからと休む」「保育士に協力しようとしない」などと同僚の勤務態度を告発したほか、別の調理員からは「自分好みの濃い味付けをしていた」といった声も寄せられていた。

　澁谷市議は「食べるなら給食費を払う―といったルールを作るべきだ。本来、調理員の職場環境を問題提起し、市や保育所長の監督が行き届いていないことを改善することなどが私の質問の趣旨だった」と話す。

　作家の室井佑月さんは「調理員の職場いじめの問題と、給食の残りを廃棄するかどうかという問題がごっちゃになって騒動になっている感じがする」と首をかしげる。

　公費での購入だから廃棄という市の説明については「役員は四角四面だなあと思う。絶対に余りが出ないよう厳密に計算できればいいけど、給食って少し多めに作るものではないのか」。室井さんの小学六年の長男は給食をよくおかわりする。子どもの食べる量はまちまちだ。

市側は面倒避け問題すり替え？

　「市は、職場いじめがあったという告発は真摯に受け止めて、別個に解決しなきゃいけない」とこう続ける。「給食の残りをどうするかは、『全部廃棄しろ』と市が命令する話じゃなくて、現場の判断に任せればいい。市は職場環境問題はややこしいから、わざと給食の問題にすり替えちゃってる気がする」